

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		8/12~8/19	8/19~8/26
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.12
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.050
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.039
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.16
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.032
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.038
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.037
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.062

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		8/12~8/19	8/19~8/26
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.030
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.026

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

市内の天気浮遊じん中のセシウム137濃度は、平均0.05 mBq/m³と極めて低い濃度であり、健康影響について心配はいりません。思い返せば、原発事故直後から、人々は放射能や放射線の危険について信頼出来る情報が少なく、不安な毎日を過ごしました。その状況において、行政や専門家は、我が国にしっかりと危機管理システムを整備する必要があると指摘してきました。しかし、10年近く経ってコロナウイルス危機が訪れ、いまだ我が国の科学事実ベースのまともな危機管理システムは出来ていないと思います。今回も経験したことのない大型台風が来ており、様々な事故や自然現象は次々とやってきます。いまは、危機管理システムの整備を待つだけでなく、自分自身を守る力を身につけなければなりません。